

今年度の活動報告 及び 来年度の活動計画

気象庁 大気海洋部
気候情報課

令和4年度の活動報告

- 異常気象分析検討会（会合）の開催
 - 第1回（2022年8月22日）
 - » 報道発表「6月下旬から7月初めの記録的な高温及びその後の天候の特徴と要因について」
<https://www.jma.go.jp/jma/press/2208/22b/kentoukai20220822.html>
 - 第2回（2023年3月2日）
 - » 今年度の活動報告と来年度の活動計画
 - » 今冬の天候の特徴とその要因これらの会合において、夏と冬の予測の振り返りも実施
- 異常気象分析検討会・作業部会委員の任期満了
 - 本年3月末で現委員の任期満了、次期委員も変更なし
 - 次期任期：本年4月～2025年3月（現在委嘱手続き中）
- その他の活動
 - 異常気象分析Webの公開範囲拡大（専門家の登録）
 - 気候系診断会議（気象庁で毎月実施）やメーリングリストを通じた議論

令和5年度の活動計画

- 異常気象分析検討会（会合）の開催
 - 来年3月頃（活動のまとめ/次年度計画の検討）
 - 異常気象発生時
- JRA-3Qに基づく気候系監視プログラムの利用開始（お知らせ）
 - 5月頃：気象庁では気候系監視に用いるデータセットをJRA-3Qへ切り替える予定
 - 来年度後半：JRA-3Q再計算（2013年以降）結果による更新を予定
 - これに伴い、異常気象分析Webや気象庁ホームページにおける気候系監視プログラム、統計資料（ENSOやIODの合成図解析等）を更新する予定
- 分析ツールの更新・拡充
 - SST感度実験に用いるモデルを更新予定
 - 異常気象分析Webへ「低気圧活動の監視（北海道大学稲津作業部会委員提供のプログラム利用）」、「寒冷渦マップ（三重大学春日博士、新潟大学本田作業部会委員提供のプログラム利用）」の追加を検討

令和5年度の活動計画

- 「寒冷渦マップ (三重大学春日博士、新潟大学本田作業部会委員提供のプログラム利用) 」の**試作版**
Kasuga et al. (2021, MWR)

500hPa面での 寒冷渦・トラフの検出結果

※JRA-3Qを用いて算出

コンター: 500hPa高度(単位:m)

▼: 高度の極小域

○: 切離渦、○: トラフ

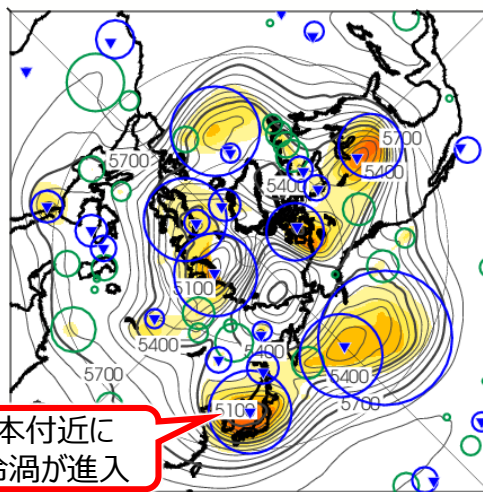
(半径100~2600kmの水平スケールをもつ渦を対象、○の大きさは渦の半径)

色: AS+(高度場の凹み具合の指標)

単位は $m(100km)^{-1}$

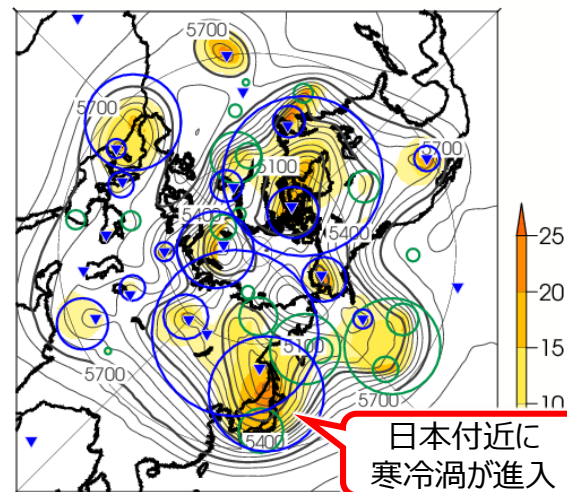
2022/12/23 00Z

500hPa Lows 00Z 23Dec.2022



2023/1/24 12Z

500hPa Lows 12Z 24Jan.2023



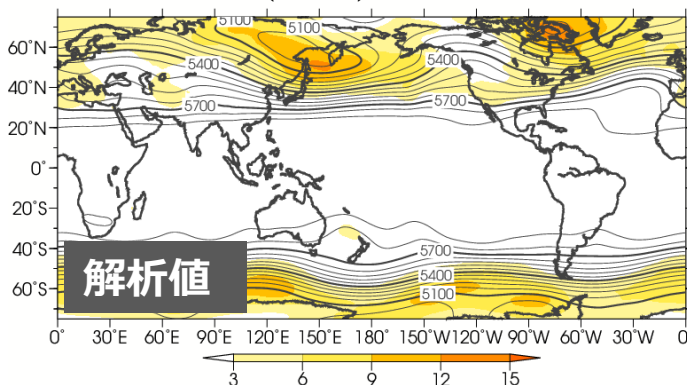
500hPa面 AS+の分布 (2023年1月平均)

コンター: 500hPa高度
(単位: m)

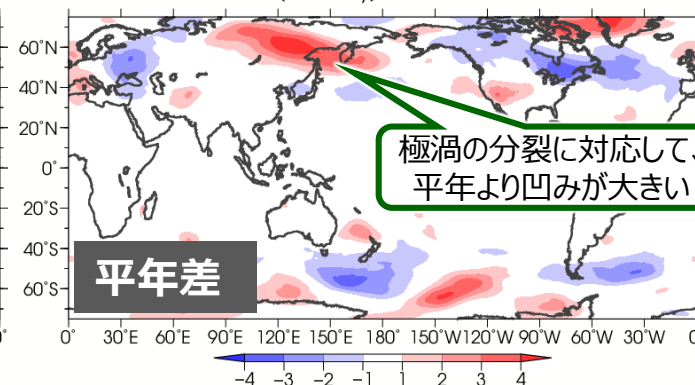
色: AS+

(単位: $m(100km)^{-1}$)

500hPa Lows Jan.2023(Historical)



500hPa Lows Jan.2023(Anomaly)



令和5年度の活動計画

- 「寒冷渦マップ (三重大学春日博士、新潟大学本田作業部会委員提供のプログラム利用)」の**試作版**
Kasuga et al. (2021, MWR)

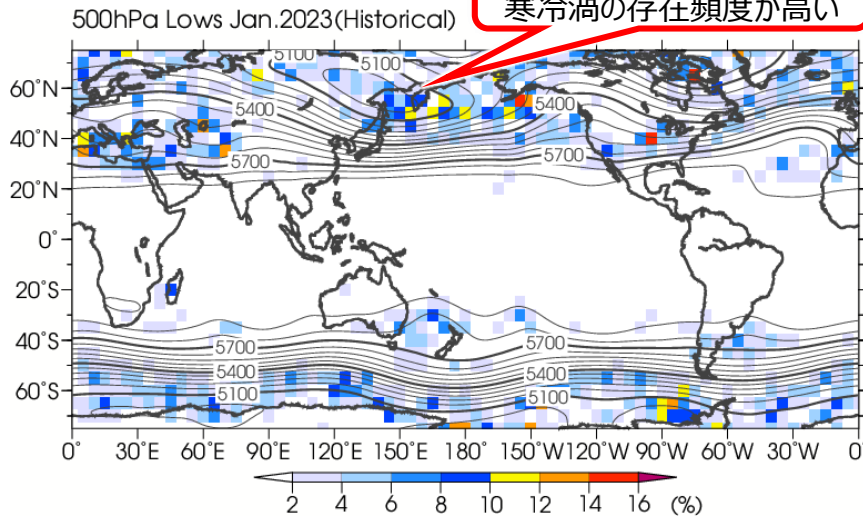
500hPa 寒冷渦の存在頻度 (2023年1月)

コンター: 500hPa高度(単位:m)

色: 存在頻度(単位:%)

※前スライドの寒冷渦指標で検出された寒冷渦の個数を、5°格子間隔で月内でカウントした値

解析値



平年値

